

武田 典久 議員

(一問一答方式)



- ①障がい者支援について
- ②長浜港内港埋立事業基本計画(案)について
- ③学力向上について

災害時の避難について

問 災害発生時において、障がいのある方の避難の難しさは明白である。大洲市で進めている避難行動要支援者個別避難計画策定の進捗状況や、その計画を利用した避難訓練の実績を伺いたい。

答 自主防災組織や民生委員など、避難支援関係者の協力を得て、令和6年1月末現在で対象者1,974名に対し969名の方に計画書を作成いただき、作成率は49%となっています。また、こうした個別避難計画の作成率と併せて重要になるのが、要支援者と支援する側とのマッチングになります。支援者として、家族等が近くにいれば、スムーズな避難行動も可能ですが、誰を支援する側に設定するのが大きな課題であると認識しています。

個別避難計画をもとに実施する避難訓練は、大変重要なことだと認識しており、訓練を積み重ねていかなければならないと考えますが、まずは自主防災組織や民生委員等の協力を得ながら、要支援者と支援者とのマッチングについて進めていきたいと考えています。

平地区の自主防災組織では、要支援者を自宅に迎えに行き、福祉避難所に避難させるという訓練を実施して自主防災組織と要支援者、受け入れ施設が連携して避難の流れを確認することにより、要支援者の方々の安心感につながっています。

長浜港内港埋立事業基本計画(案)について

問 本基本計画で示す埋立事業の目的と、埋立並びに施設整備を行うことで、どうやってその目的が達成されるのか、お伺いしたい。

答 昭和62年に策定された長浜町第3次開発事業基本計画は、平成15年に見直しが行われてから約20年が経過しており、当時と比べると人口や社会

情勢が大きく変化していることから、土地利用計画や施設整備計画について、現状を踏まえたうえで再度見直すこととし、地域の方々を委員とする検討会での協議を経て、今回「長浜港内港埋立事業基本計画(案)」を作成したところです。

この基本計画案における目標を、地域の持続的な振興、地域内での消費拡大と定め、目標の視点として大きく2つ、人口維持と交流促進を掲げています。

目標の達成に向けては、導入を検討している道の駅などの便益施設や多目的広場などのスポーツ・レクリエーション施設を整備することにより、交流人口の増加を目指すとともに、公共施設の整備も加えながら、地域住民の生活環境の向上を図ることで、空き店舗を利用した新たな創業、空き家を活用した市外や市内周辺部からの居住人口の増加につながるものと考えています。

また、基本計画案においては、国道378号を改良することとしており、この事業が実現すれば、現在国道378号に存在する2か所の直角カーブの危険性についても解消されるものと考えています。

学力向上について

問 全国学力・学習状況調査の結果と課題についてどのように分析し、取り組んでいるか。

答 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果では、小中学校とも、国語、算数・数学、英語の正答率が県平均、全国平均を下回っています。特に文章を読み取り、複数の資料から必要な情報を得るなどの、応用力の設問に対する正答率が低い傾向にあります。

その一方、児童生徒に対する調査において、「自分で計画を立てて勉強している」の項目や、「将来の夢や目標を持っている」等の項目では、全国平均より高いため、当市の子供たちの意欲は高いものと分析しています。

学力向上専門委員会では、個人差が大きい個々の学力や、多様化する学習支援に対応するため、令和5年度からデジタル端末を使用し、個別対応で利用できる学習教材「スマイルネクストドリル」を全小中学校に、また、意見交換や学習発表が容易に実践できるアプリ「ロイロノート」を全小中学校に導入し、授業改善や個別最適な学習支援に役立てています。